

# 令和5年度 浜松市立芳川北小学校 学校評価報告書

## I 令和5年度の取り組み

### 「気づく 考える 行動する」子供の姿

- 物や人との出会い、体験活動、視点を変えることでの気づき
- 他と関わり合いながら、推測や情報収集を通して高める考え
- 支え合いながら、考えたことに自信をもって行動し認め合う
  - ・教科担任制 ・ICTの活用 ・教材研究
  - ・家庭学習の在り方検討等 ・教師の声掛けと仕掛けの工夫
  - ・思いやりの日

### 学年(団)を軸とした「カリキュラム・マネジメント」

- 児童の1年間の育ちを見通し、学年経営構想図を基に各学年で教育活動を展開する。また、節目ごとの評価・改善を行い、常に児童の実態を把握しながら学年経営を行っていく。
  - ・PDCAサイクル ・児童理解、学年担任の意識等
  - ・「知」「徳」「体」の重点を意識した指導 ・学年イベント
  - ・いじめ防止対策 ・キャリア教育 ・学年会の充実

### 保護者・地域と共に「コミュニティスクール」

- 9名の委員で構成される学校運営協議会を設置し、構成される学校教育方針の共有する。保護者や地域住民と一体となって、学校運営の改善や児童の教育活動の充実を図る。
  - ・地域で育つ児童 ・クラブ活動 ・地域人材活用
  - ・児童の学習活動、学校整備に関するボランティアシステム
  - ・児童の安心・安全をみんなで守る

## II 自己評価

### ○ 児童・教職員・保護者・学校運営協議会委員の評価

質問項目	達成率 (%)		
	児童	保護者	教職員
自分や身の回りの課題に気付くことができる。	83.0	65.8	85.5
自分の力で、または、周りに関わりながら、考えを深めたり、課題の改善方法を考えたりすることができる。	78.9	75.7	72.4
自分で考えたことや改善方法を、実際に行動に移すことができる。	77.8	73.6	79.3
学習したことが身に付いている。	87.0	86.7	86.2
家庭学習(学年×10分・1、2年生は目安の時間はなし)に取り組んでいる。	75.8	65.8	58.6
学校で学んだことが将来の役に立つと考えている(キャリア教育)。	87.4	52.9	72.4
教科担任制を通して学習への意欲や学んだことへの理解度が高まっている。	89.8	77.0	90.5
自分の良さに気付いている。	75.0	73.4	79.3
学校に楽しく通っている。	88.0	89.4	96.5
いじめは絶対にしてはいけないことを理解している。	94.5	97.3	89.7
公共マナーを守っている。	86.8	95.6	79.3
自分から進んで気持ちのよい挨拶をしている。	82.9	67.6	51.7
進んで体を動かしている。	76.7	76.3	86.2
家の中での過ごし方を考えたり、交通ルールを守ったりして、安全に生活している。	88.3	89.8	69.0

## III 評価からの分析

### 【アンケート結果より】

- ・「気づく 考える 行動する」の合言葉を元に、各学年の実態を捉え学年担任が目指す子供の姿を意識しながら教育活動を工夫し、支援を行ってきた。それにより、児童・教職員の80%以上が気づく力がついてきたと感じている。しかし、保護者の割合は低く、学校側と家庭との認識の違いがある。学校の取り組みがしっかりと伝わっていないことが要因と考えられる。また、気づくことができても、その気づいた課題を自分の力で解決しようと考えたり、行動に移すことが難しい児童もいる。
  - ・教科担任制を導入していることで、学習の意欲や学んだことへの理解度が高まり、学習したことが身に付いていると実感できていると児童・保護者・教職員の90%弱が感じている。
  - ・家庭学習への取り組みについての達成率が、保護者・教員共に60%前後と昨年度に引き続き低い評価になっている。特に、自分で考えて学習を進めていく高学年段階で不安を抱える児童や保護者がいる。

### 【全国学力調査の結果より】

- ・将来の夢や目標を明確にもち、毎日の生活が充実していると感じている児童の割合が高い。
- ・年度初めに各学年の実態に合った家庭学習のやり方を児童や家庭に説明している。その結果、家で自分で計画を立てて学習に取り組んでいる児童の割合が高い。
- ・昨年度に引き続き、朝食の喫食率が低い。今年度保護者向けに「食の大切さの講演会」、6年児童に向けて「簡単にできる朝食メニューの実習」を行った。今後も引き続き食に関する教育活動を行っていく必要がある。
- ・1日当たりの読書時間や図書館利用回数が全国平均に比べて低く、「読書が好き」と感じている児童の割合もかなり低い。

### 【いじめアンケート結果より】

- ・いじめは絶対いけないと約95%の児童が理解している。本校では、「芳川北小いじめ防止基本方針」に則り、いじめの未然防止やいじめの早期発見など対応を行っている。いじめを認知した際、「いじめ対策防止基本方針」とはままつの教育「いじめ対応の手引き」に沿って、被害者に寄り添って対応している。また、保護者にはいじめの状況や指導したことなど、事実に基づいた報告を心掛けた。教職員がいじめがいけないと理解している児童が約90%と感じているのは、実

## IV 学校運営協議会による学校関係者評価 (R6.02.19(月))

- ・子供の教育を今の時代の流れに合ったものにしていく必要がある。タブレットの扱い方や使い方の指導をしていかなければいけない。タブレットで勉強を子供同士で教え合うような使い方ができていくとよい。
- ・昨年、課題となったテレビゲームをしている時間は改善されてきた。動画を見ている時間が増えてきたが、学習に関係する動画もある。カテゴリー別に細かく児童の実態アンケートをとり、傾向を分析していくとよい。そうすることで、読書量を増やすことにもつながっていく。
- ・読書の意識を改善していくには、音読に力を入れていくとよいのではないかと。聞こえる声で話す、良い本に出会う、そのような教育活動を進めてほしい。
- ・いじめ対策は、個に応じた丁寧な対応を今後も続けてほしい。

## V 次年度に向けた改善策

- ・職員へのアンケート結果から、「学年カリキュラム・マネジメント」により学年で同じ目標をもって取り組むことができたことと効果を感じている。目指す子供の姿に向かって、学年でどのような取り組みを行い、その結果子供たちについて力は何かを便りやホームページを使い、具体的な子供の表れをより丁寧に伝えていく。
- ・家庭学習については、全国学力調査の結果から6年生は前向きに取り組んでいることが分かった。保護者からも自分で考えて行うやり方を継続してほしいという意見もあった。高学年に向けて、自分の課題に合った学習を進めていくことができるように、それぞれの学年で実態にあった学習方法を丁寧に説明し、しっかりと教師が見取り、声掛けを行っていく。
- ・いじめを未然に防止するために、今後も「学年カリキュラム・マネジメント」を通じ、「思いやりの心」をもった学年集団を形成することで「いじめ0」を徹底していきたい。
- ・コミュニティスクールを通じた学習ボランティア(なないろパレット)を一層充実させ、いろいろな人から学び声掛けをしてもらうことで、児童が自分の学びを実感することが大切である。達成感を味わうことで、さらに学びたいという意欲や学んだことが生活の場面でも生かされていることに気づき、キャリア教育の推進につながることを考える。
- ・読書への意識を改善していくために、来年度は文化芸術大学の林氏を招き、本を読むことの楽しさを「はごろも『夢』講演会」で保護者に話をしてもらう。また児童には劇団たんぼぼの方を講師に招き、群読の指導を行う。家庭と学校が協力して、タブレットや動画を見ている時間を、本に親しむ時間にもしていけるように環境を整えていく。